

二次…習得した技能を生かして、作品をつくる。

＜屏風折や平面のタイプ＞



＜円柱や四角柱のタイプ＞



②製作途中の交流を工夫する…

自分の発想を基点に友だちのイメージを参考にする時間を設定する。相互にイメージを深めたりイメージの世界を広めたりする時間である。友だちのまねではない。「そんなんして、いいんや」「おもしろそう」という気付きをさせる時間である。友だちと交流し学び合う場面を工夫し、児童に様々な表現に向かわせることができる。



3年「クミクミックス」



4年「ギコギコ コロコロ たのしいなかま」



③題材名を工夫する…

題材名で、表現の方向性や意図を示してみる。また ワクワク感を持たせる楽しいネーミングは効果的だった。

〔 2年 どうめいくんの大へんしん 〕

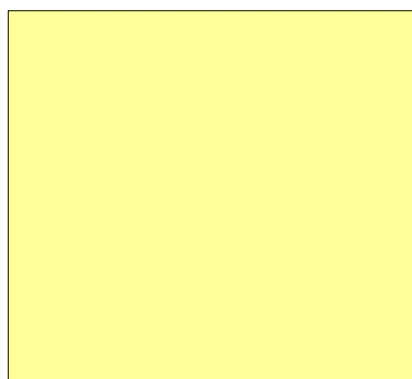
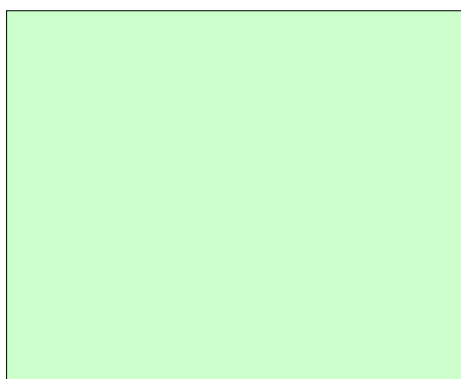


〔 6年 ○○そうな靴 〕

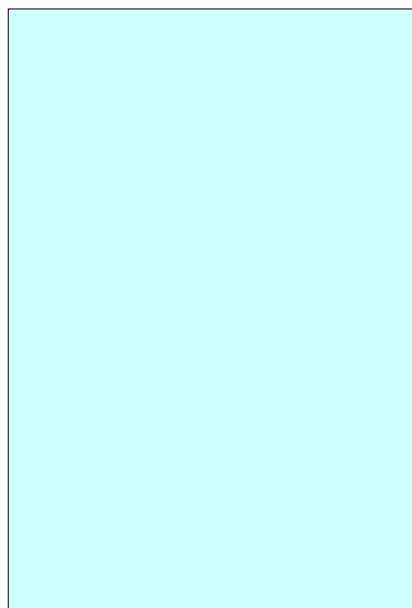


〔 5年 世界に1つだけのタワーをたてよう 〕

「世界に
1つだけ」を
意識した作
品



「タワー」
をイメ
した作
品



④対話を強く意識する…

児童がイメージを持てなかったり、発想が広がらなかったりしたときに、会話することは有効であった。表現の意図やイメージを語らせたり、対話したりすることで児童一人一人の表現の面白さに教師は気付くことができた。

また作品で表現しきれなかった意図や思いが分かるようになり、教師は児童の思いを共有して、作品にその思いを表現する喜びを味わわせるようになった。

そこは、どうなってるの？



2年「とうめいくんの大へんしん」

描いてみたいことは？



3年「あのときをわすれない」

⑤画材を選ぶ…

使ってみたい用具や画紙の色を自由に選ぶ。また画用紙をつないで描く、輪郭を描かずに形をとらえるなど、教師自身が自由な発想で活動を提案していくことで、児童の発想を広げることができた。

3年「あのときをわすれない」



2年「あわからうまれて」



1年「のってみたいな」



⑥鑑賞の活動を進める…

学習の初めに鑑賞を取り入れ活動の見通しを持たせることができる。途中の鑑賞は、児童が自分の作品の発想を広げたり、構想を深めたりすることができる。最後の鑑賞は作品の良さや工夫を見付けることができる。

製作過程での「何を意識して自分は描いたか」ということが、友達の作品を鑑賞する視点にもなる。表現活動で大切にしたい視点は、その作品を鑑賞するときの視点とリンクしている。

自分たちの作品の鑑賞だけではない。美術作品の鑑賞を通して、作品にこめられた願いを感じ取ったり、語り話し合ったりする授業を進めることができた。

また、普段何気なく見ている対象物を意識してみると形や色を基に意味をつくりだす面白さを味わう鑑賞の学習も進めることができた。

6年 願いや思いを形や色に…



ゲルニカ（ピカソ）

1年 かげをうつして



4年 これも顔に見えるよ



⑦見せ方も工夫する…

題材名、学年、名前、作品の紹介・表現の意図、工夫したところや見てほしいところを作品札等を書くことで自分の思いを伝えていくことを大事にした。また児童が好きな方向や位置に掲示するなど、見せる工夫も表現であるにとらえた。

6年 墨絵



横に長いことを生かし表装して、巻物に仕上げている。

5年 ほり進み版



版画を傾けたり、余白に飾りを付けたりして、工夫を加えている。

図工展にて



作品札に近付かなくても見てほしいポイントを強調している。

自分の表現の思いを伝える作品札

題名		☆
年	名前	
作品の紹介		
工夫したところ・見てほしいところ		

振り返りと作品札を一つにしたカード

**世界に一つだけの
タワーを作ったよ**

☆作ったタワーに名前をつけよう。

☆どんなくふうをしましたか。

- ・形について
- ・安定させるために

☆苦労したことは？

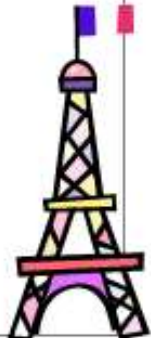
☆タワーのてっぺんにのぼると、
何が見えるかな。どんな気持ちかな。

☆タワーのてっぺんにのぼると、
何が見えるかな。どんな気持ちかな。

5年前

君のタワーを見て見て!!
ここを覗いてほしいな。

☆針金を曲げたり、たばねたり、ペンチで切ったりしてつくったね。楽しかったね。**アピールポイント**を書こう。



- 33 -

2 成果と課題

成果1…児童の変容

題材の選択や、題材の指導計画を工夫したことで、自らのイメージを持たせることができた。また、友だちと交流し学び合う場面を工夫することで、イメージの世界を広げ深めることができた。これらのことを通して、児童の作品づくりに対する意識が変化し、自らのイメージを表現することの楽しさを味わい意欲的に活動することができた。

成果2…教師の変容

講師を招聘し、理論研究や実技研修を通して、表現の主体者は児童自身であるということ強く意識し、児童の思いや意図を表現させる授業に取り組めた。また、表現の楽しさ面白さを味わえる新しい題材や技法とともに美術作品の鑑賞や、身の回りの材料や場所をもとに鑑賞する授業にも取り組めた。

課題 …研究の成果を引き継ぎ、これからも図画工作科を嫌いにさせない、苦手意識を持たせない指導を続けていく。

【児童の意識について】

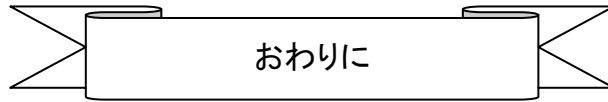
- ・授業の途中で「こんなところを工夫したよ」、「ここをこうしたいんだけど、困っている」、「わたしならこうしてみる」など、自分なりの考えを持って活動するようになった。
- ・「いいこと考えた」「見て見て」という言葉がたくさん聞かれるようになった。
- ・友だちの作品のよさや工夫を自分の作品に取り入れたりしながら、互いにイメージを広げ、実現しようとする姿が見られるようになった。
- ・特に新しい題材の授業では、より関心を持ち、楽しんで活動するようになった。
- ・意識調査から図画工作が好きな理由が、「自分がしたい工夫でつくれるから」「誰かにしばられずに自分独自のものができるところ」「自分で考えて、ああいうふうなものをつくらうと思いついた物や絵が形になっていくところ」と、変化した。

【教師の意識について】

- ・自らのイメージの表現を強く意識するようになった。
- ・評価は、仕上がった作品だけで行うのではなく、「ぼくはこうやりたい」、「わたしはこう考える」といった児童が試行したことなど、学習過程での様子とあわせて行うようになった。

【図工展での保護者の感想より】

- ・1つ1つ個性があって子ども達の気持ちが伝わってくるような作品でした。
- ・子ども達の素直な心が作品に表現されており、色や形がとても新鮮に思います。
- ・初めてみた図工展です。学年が上がるにつれて細部までこだわっていたり、作品の対象となるものをよく観察できていて驚きました。どの作品も個人のアイデアやこだわり、デザインにこっていて、一生懸命さが感じられました。
- ・自分の好きなものを自分なりに工夫して作品にっていて、どの学年もよくできていたと思います。



本校では、児童一人一人が感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することをめざし、授業実践を通して指導方法の工夫改善に取り組んできました。形や色の特徴をとらえ、造形表現することで、自らのイメージを形に変えて相手に伝える。また、作品を語り合いながら、他者の様々なイメージを知り、相互に高め合う。児童が、こことからだを通していろいろな気づきや学びができる授業をめざして研究に取り組んできました。

本日は、「自らのイメージを表現する」ことを大切にした学習展開や、「イメージを相互に高める」場面の工夫に視点をあてて、授業をご覧いただけたらと思います。そしてご参観いただいた方々のご意見ご感想を糧に、また明日から新たな一歩を歩み出そうと考えています。

後になりましたが、研究推進にご指導ご助言いただきました京都教育大学教授村田利裕先生、元京都教育大学非常勤講師蘆田照代先生、京都府総合教育センター北部研修所研究主事兼指導主事高橋淳夫先生、京田辺市教育委員会、その他にもご支援いただきました多くの先生、関係の皆様感謝し、お礼申し上げます。

平成24年10月19日

京田辺市立普賢寺小学校
教 頭 小川 比呂志

研究同人

平成24年度

廣 見 薫	小川比呂志	佐々摩利	上村弘子
岡島克典	谷口欣穂	桐山和美	府金隆清
山口知加子	南村奈津美		

平成23年度

岡本新一	小川比呂志	佐々摩利	上村弘子
岡島克典	谷口欣穂	桐山和美	塩田照美
山口知加子	南村奈津美		

平成22年度

岡本新一	小川比呂志	佐々摩利	上村弘子
岡島克典	中村一雄	福田あけみ	鷺見篤